1/28 県福

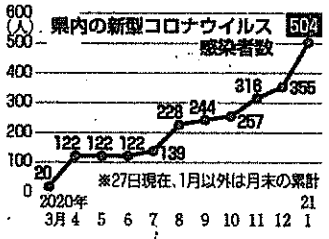
新型コロナ 県内500人超す

年明け以降 ペース加速

県内での新型コロナウイルスの感染者が二十七日、累計で五百人を超えた。昨年三月十八日に初確認されて以降、三百十六日目での到達だった。今年に入って、感染者の発生ペースが急加速している。

累計四百人は今月十三日に超え、そこから五百人に達するまでわずか十四日間だった。この間、十五日には一日の最多新規感染者数を更新する二十五人を記録したほか、十五日連続で感染者を確認している。

月別の累計でみても今月は既に百四十九人となり、これまでの最多だった昨年四月（百一人）を大きく超えている。うち坂井市の介護老人保健施設でのクラスター（感染者集団）が二十七日現在で四十二人を占めている。ほかにも家族内感染が相次いでいる。



県健康福祉部の窪田裕行部長は岡田の会見で、県内での五百人到達を問われ、「年末年始や成人式の影響は一通り収まったと思うが、たくさんの感染者が福祉施設を中心に出ている。県外との移動に注意し、家の中での感染対策やマスク着用、換気をいま一度徹底してもらいたい」と呼び掛けた。（尾嶋隆宏）

感染確認 15日連続

新たに8人 病院職員2人

県は二十七日、越前市、福井市、高浜町、永平寺町の十歳未満～四十代の男女八人が新型コロナウイルスに感染したと発表した。うち二人は鯖江市の公立丹南病院と福井市の福井総合病院の職員だった。八十代の男性が死亡し、県内の死者は十六人になった。県内で新規感染者が確認されたのは十五日連続。累計は五百四人。（藤共生、尾嶋隆宏）

公立丹南病院の二十代の男性職員（越前市）はコロナ病棟で勤務。二十五日に発熱し、二十六日にPCR検査を受け陽性が判明した。既に接触があった職員十四人と患者三人にPCR検査を行い、全員が陰性だった。

福井総合病院の四十代の女性職員（永平寺町）もコロナ病棟で勤務。二十五日に発熱し、二十六日に陽性が判明した。職員六十九人にPCR検査を行い、既に陰性が確認されている。接触があった知人の三十代男性会社員（福井市）は陽性だった。

高浜町に住む二家族から計四人の陽性が判明。うち一家族は二十代男性会社員と十歳未満の女性。同居家族が隣接する京都府内で働いており、府内でPCR検査を受けて今月十四日に陽性と発表されていた。

もう一家族はともに十歳未満の男児二人。同居家族が京都府内で働いており、府内でPCR検査を受けて今月二十日に陽性と発表されていた。

福井市の二十代女性会社員は、二十五日に感染が公表された。あわら市の五十代女性会社員の同僚。

二十六日に職員の感染を公表した福井市の県立病院は、二十七日までに六十六人をPCR検査し、全員が陰性だった。

県内の重症者は一人減って三人となった。八人が退院して入院者数は七十六人。病床占有率は29・8％で、県の警戒レベルで最高位の「緊急事態」（25％）を超えている。

県内の新型コロナウイルス感染状況

※かっこ内は前日からの増減。単位は人

感染者数	
累計	504(+8)
直近1週間	42(+7)
市町居住地	
福井市	223(+2)
坂井市	83(0)
鯖江市	33(0)
越前市	33(+1)
あわら市	14(0)
大野市	6(0)
勝山市	1(0)
敦賀市	43(0)
小浜市	16(0)
越前町	11(0)
永平寺町	6(+1)
南越前町	2(0)
若狭町	6(0)
高浜町	10(+4)
おおい町	3(0)
美浜町	1(0)
県外	13(0)
症状・医療の状況	
死亡	16(+1)
重症	3(−1)
軽症ほか	73(0)
宿泊療養施設	0(0)
県外入院	0(0)
退院	412(+8)
病床占有率	29.8%
ICU占有率	12.5%

鯖江の児童51人と教職員5人は陰性

小学校きょう再開

鯖江市教委は二十七日、新型コロナウイルス感染が判明した児童と同学年の五十一人と教職員五人がPCR検査をした結果、全員陰性だったと発表した。小学校は消毒作業を終え、二十六、二十七の両日を臨時休校としたが、二十八日から再開する。（中場賢一）

困難伴う高齢者看護

施設入所者 受け入れ病院

病院職員の新型コロナウイルス感染が二十七日、県内の二病院で新たに判明した。前日にも県立病院（福井市）で一人の感染が分かっており、コロナ病棟内で感染したとみられる病院職員は二日間で三人となった。県によると、原因の一つとして推定されるのは、介護老人保健施設に入所していた患者の看護の難しさだ。

十四日以降、坂井市の介護老人保健施設で入所者三十五人の感染が判明。患者を嶺北一円の病院に分散して移送し、看護している。この二日間で職員の感染が分かった三病院でも、患者を受け入れている。

感染対策や検査

コロナ病棟では職員が完全防備で看護に当たっているが、施設入所者の多くは認知症を患っているため、看護は困難が伴う。マスクの着用を徹底しにくく、検査のために唾液を採取するのもすんなりとはいかない。県の担当者は「思わぬ動きをされることもあり、難しさがある」と現場の苦労を説明した。（藤共生）